CALENDAR 三月 第36回

歳時世相篇

ディスカヴァリーデー
マゼランに「発見」されたグアム島

印東道子（いんとうみちこ）
民博 民族社会研究部

島の各地で繰りひろげられる多様な催し。華やかにみえるその表舞台の背後には、先住民と西洋の出会いがもたらした複雑な関係が見え隠れしている。

上陸の地

ミクロネシアのグアム島では、現在、三月の第一月曜日はディスカヴァリーデーという祝日になっている。一五二一年三月六日に、ポルトガル人フェルディナンド・マゼランが、グアム島を「発見」して上陸した日にちなんで祭りがおこなわれる。

一九二六年にこの祭りが始まった当初はマゼランデーとよばれ、マゼランが上陸したといわれるウマタック村を中心におこなわれていた。その後、この日はグアム島の正式の休日になり、マゼランデーからディスカヴァリーデーへと名称が変化し、ウマタック村を中心に各地で音楽やダンス上演やコンテストなど、多様な催しが開催されている。

ところが、ウマタック村がマゼラン上陸の地ではない可能性を指摘した論文が、一九八九年に発表された。航海日誌に書かれた航海距離や、船から見えた島影の特徴などが詳細に検討された結果、ウマタックよりも北のアガナやタモン湾に上陸した可能性が高いという。一九二六年以来、マゼラン上陸を記念した石柱を海岸に立てて観光スポットとしてきたウマタック住民にとっては思いがけない指摘であったが、マゼラン上陸の地を他の町にゆずる気配は今のところない。

実際、ウマタック村は、先住民であるチャモロの伝統的居住地としては規模が大きく、村の北にあるファウハとよばれる大きな岩は、この世を創造した兄妹神の妹が身を投げてできたと伝えられ、毎年、ここで祭りが開かれていた。また、一七世紀に当時スペインの支配下にあったメキシコのアカプルコとフィリピンとのあいだでおこなわれた、ガレオン船貿易の中継地として使われた際には、スペイン人の居住域が設定され、大きな教会を有するキリスト教区がもうけられるなど、豊かな村として栄えた歴史をもつ。「マゼラン上陸の地」という観光資源をそう簡単に手放すわけにはいかないわけだ。

悲劇的な出会い

そもそもディスカヴァリーデーを祝うことに対しては、チャモロの人びとからは強い反発が示されてきた。人びとにとって、グアムはマゼランによって「発見」されたのではなく、自分たちの祖先が発見して暮らしてきた島である。考古学からは、紀元前一五〇〇年にはすでに土器を作る人たちが暮らしはじめていたことが明らかになっている。一八九八年にスペインからグアムを購入して以降、米国がグアムを領有している現状においては、グアムのディスカヴァリーデーはきわめて西欧中心的な記念日とも位置づけられる。

さらに、マゼランとチャモロとの出会いは決して友好的なものではなく、チャモロにとっては悲劇的な出来事だった。一五二〇年一一月に南米南端のマゼラン海峡を抜け、ヨーロッパ人としてはじめて太平洋を航海したマゼラン一行は、三カ月ものあいだ、水や食料を補給できる島を見つけることができず、三月にグアム島にたどり着いたときには、多くの乗員が壊血病に苦しみ、飢え死にする一歩手前の状態だった。

沖合に停泊して上陸準備をしていたマゼランの船は、島からこぎ出してきた二〇〇隻以上ものアウトリガーカヌーに取り囲まれた。次々に甲板にあがってきたチャモロたちは、船上で見つけた鉄などを手当たり次第にもち去り、上陸用に準備されていたボートまで奪って逃げていった。怒ったマゼランは、このボートを取り戻すために兵士の一団を上陸させ、報復として家を焼き払い、七人もの男たちを殺害した。

これが、マゼランとチャモロとの出会いの真実であり、チャモロの人びとがディスカヴァリーデーとして祝いたくなるものでは決してなかった。ディスカヴァリーデーの目玉としておこなわれる寸劇では、マゼランたちが島に上陸して村人を殺害する様子が再現される。この劇を上演することは、グアム島の先住民がだれであるかを表現し、さらには現在の米国支配にまでつながる被支配の歴史の原点を強調することにつながる。

観光と保存

現在では、ディスカヴァリーデーに続く一週間が「チャモロウィーク」とされ、チャモロ文化を学ぶイベント類が毎年用意される。背景には、先住民であるチャモロへの配慮が感じられるが、チャモロ文化の観光資源化へとつながる行事であることは明らかだ。それでもチャモロの人びとにとっては、ラッテとよばれる巨石建造物見学や伝統的なカヌー作りなどを紹介するイベントをおこなうことによって、グアム島の先住民の存在や伝統文化の継承をアピールする機会にもなっている。

このように、グアムでおこなわれるディスカヴァリーデーの裏には、マゼランとチャモロとの悲劇的な遭遇の歴史、グアムの先住者がだれであるか、伝統文化の観光資源化と保存運動などが複雑に見え隠れする。

現在もウマタック湾に立つマゼラン上陸記念碑（2006年撮影）